

Propulsion

Propulsion…日本語で言えば「推進力」
足を止めることなく、一歩でも進み、
道を切り開こうという意図から

鹿児島県理学療法士連盟会長より

連盟会員の皆さん、こんにちは。鹿児島県理学療法士連盟会長 村山芳博です。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で、3月に予定していた連盟主催の研修会が中止となり、それからは皆様の安全を第1と考え、様々な活動自粛を余儀なくされてきました。連盟活動の情報が、なかなか広報できずに申し訳ありませんでした。

先日アンケートを取らせて頂き、もっと連盟の活動を知りたい、というお声を頂きました。定期的に広報活動として連盟ホームページには掲載していましたが、今回、定期的にこのような広報誌を皆様にお届けし、情報の共有を図っていく所存です。

「このコロナ危機は我々をどう変えるのか？」今まで当たり前と思っていた事ができなくなった、ではどうすればいい？

この事をプラスの考え方へ発想の転換をする、研修会やその他の活動、また社会生活の中で必ず実施される選挙戦等にも、今までの動きよりもっと効率的で生産性の上がるやり方がきっとあると思います。皆様方の忌憚ないご意見を基に、社会の中で必要とされる“政治”“選挙”に真摯に向き合っていく。それが連盟活動です。

これからもご理解・ご協力を宜しくお願い致します。



「政治とは何か」

ジャーナリスト池上彰氏の著書の中には次のように書かれています。

「人間集団におけるルール作りとルールの変更や廃止をめぐって他者と共に行う営み。まつりごと。」とあります。大昔は国王が自国民をまとめ上げるための「まつりごと」でありましたが、いつしかそれが権力となり支配に変わっていきました。そして歴史の授業でも習ったように、清教徒革命やフランス革命といった支配層の権力を奪い、権力を国民に移し、国民の代表が治めていこうという流れがありました。これが「政治」の源流となります。

現在では「国民全員が安心して生活できる方法を模索し、そして実行する」ことが「政治」と言えるといわれています。

政治を支える資金、これが税金です。私たちは自身が豊かに生きるために働き、この対価としてお金をもらいます。しかし個人のお金だけでは、道路を整備したり、安全を守るために警察機関等を維持したりすることはできません。ですから、みんなでお金を出し合い、共有の財産を築き、維持するために使われるのが税金です。そのお金を預かり、最善の使い道を考えるのが政治家です。政治家が国民の声を聞き、国民の幸せのために国の方針を決めるのが「政治」となります。

したがって、税金の使い道や政治家を選ぶことに無頓着ではいけません。なぜなら政治は私たちのお金を基に動いているからです。本当に今の政治が皆様のためになっていますか？ (文責 広報部 有村)

覗いてみたい あの人の理学療法士的思考

私が理学療法士として立ち返る時、モットーとしている言葉を紹介します。それは「理学療法士の評価は現状を把握するためのものではなく未来を想像するためにこそあれ！」という言葉です。

これは医学者 上田敏先生の《生活機能・障害の構造論は障害のある人の現状を解釈するためではなく、よりよい方向に変えるためにこそある》という言葉をなぞらえて私が勝手ながらモットーにしている言葉ですが、経験を重ねることで感慨深くなってきました。理学療法士として本当に正確に事実を把握できているか？恣意的な評価になっていないか？現状報告で満足していないか？予後予測はしっかりと立てているか？などその時の置かれている状況によって問いかけは変化しますが、この言葉はそんな迷いや疑問をニュートラルに戻す私にとって頼もしい言葉です。

そして理学療法士のフィールドは臨床・教育・職能・研究など多岐に亘ります。理学療法士はそれぞれの場面で評価から色々な未来を想像できる可能性も持ったすばらしい職種です。

今回、紹介させて頂いた言葉が皆様の理学療法場面の一助になれば幸いです。

鹿児島県理学療法士連盟 組織局長 湯地 英充

皆で学ぼう！政治とは何か？

お知らせ

- ・連盟研修会を検討中です (Web開催含む)
 - ・7月12日は鹿児島県知事選挙です。投票に行きましょう
- 県連盟HP QRコードです。ご覧ください。



障害者が生きていく上で、「医療」は必要不可欠です。その医療を安心して受けるために自治体の障害者医療費助成制度は大きな役割を果たしています。しかし、この制度は都道府県ごとであり、実施主体が市町村となっているために、住んでいる地域によって給付方式などさまざまな違いがあります。

全国の給付方法

■ 現物給付 30都道府県
※20才以上、一部の現物給付を含む

□ 償還払い 17県
※自動償還含む



重度心身障害者(児)医療費助成制度

鹿児島県は、「自己負担無し」や「年齢制限無し」「所得制限無し」「精神障害者への助成」など制度改善の進展はありますが、障害者・家族から強い要望のある「給付方式」は未だに(いったん窓口で医療費を支払い、後日払い戻す)「償還払い」のままです。全国で30都道府県が実施しているなかで、私たちは一日も早い「現物給付」=「窓口無料化」を求めています。

これまで多くの障害者団体などから、現物給付=窓口無料の要望書や議会への陳情書が出されてきましたが、改善されないままになっていました。また、鹿児島市や薩摩川内市、始良市など多くの自治体や県市長会から県に対しての意見書が提出されるなど、実務主体の業務改善も求められています。

障害者が医療にかかる場合、窓口負担以外にも特別な経費がかかっています。通院時のタクシーなどの交通費、入院時の差額ベッド代や付き添い費、また保険外の医療費や医薬品代など重い障害のある人ほど、医療にアクセスするための出費がかさんでしまいます。これは障害児の場合も同様で、保護者の負担は大きいものがあります。こうした障害児者の実態を広く県民の方にも知っていただき制度の改善にご理解とご協力をお願いするものです。

連盟活動紹介

皆さんは「重度心身障害者等の医療費助成制度」について考えたことがあるでしょうか。正直、そこまで考えたことはないと思います。どのような仕組みになっているかもわからない方もいらっしゃると思います。当事者でなければ考えないのかもしれませんが。

現在は本県は「償還払い」方式をとっています。つまり、受診時にかかった費用を支払い、後に返還される仕組みです。

結果的に、「お金が戻るならいいのでは」と思うかもしれませんが。しかし、もし受診をしなければならぬ状況下で、手元にお金がなければ、どうなるでしょう？

実際、手元にお金がなく受診が出来ず、重症化してしまった例もあります。

我々は、「重度身体障害者の医療費助成制度を償還払いから現物給付」に変える運動を支援し、活動しております。

現在は、署名活動を主に行っております。6月末時点で12,000人を超える方の署名が集まっております。また連盟会長、事務局長はこの問題を取り組む実行委員会のメンバーとして、ミーティングにも参加し、この問題が鹿児島で解決されるように、支援させて頂いております。

令和2年7月12日は鹿児島県知事選挙があります。現在は8名の立候補者が出ています。この方々に、この「重度身体障害者医療費助成制度」問題をどのように考えているか、公開質問状も提出して意見を求めています。この結果は随時ホームページ (https://peraichi.com/landing_pages/view/kagoshimagennbutsukyufu) でも掲載しています。

実際に候補者事務所を訪れ、問題を提起する活動も我々理学療法士連盟は支援しております(連盟会員が訪問活動を行いました)。

「連盟は選挙の時だけ」という厳しい意見もあります。決してそうではありません。我々理学療法士が現場で接する障害児者、高齢者あるいは介護(ケア)をしていらっしゃる方々などの様々な問題にも目を向け、我々の想いと一致すれば、積極的に共に活動するというのも連盟活動です。

是非、皆様の周りでも地域住民の困りごとがあり、「これなら連盟も力になれるかもしれない」ということがありましたら、ご相談下さい。みんなで課題解決に向けて取り組みましょう。

私たち鹿児島県理学療法士連盟は会員を募集します！

私たちの活動は「選挙だけ」ではありません。今回の広報紙に掲載いたしましたように様々な問題解決に向けて他団体とも協力しながら、「社会を変える」活動を行って参ります。当然、理学療法士の地位向上に寄与する活動も精力的に行っていきます。

また研修会活動も活発に開催していきます。理学療法士協会は「理学療法士としての質や技術の向上」に向けて研修会は開催されますが、連盟の研修会は「これからの社会の中でどう生きるか」という広い視点での研修会を開催する予定です。入会にご興味のある方はホームページから入会申し込みをダウンロードして事務局までご返送ください。尚、右のQRコードからも申し込み可能です。

会員募集

